

# 登熟期間は 高温の見込み!

長岡農業普及指導センター  
稲作情報 No.7

電話 0258-38-2554

E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

## 水管理の徹底と適期収穫で 1等米に仕上げましょう

- 1 か月予報（8/6発表）では、気温が高い見込み。  
出穂後25日間は飽水管理を徹底し、土壌からの窒素供給を図るとともに、根の活力を維持して、登熟後期までの栄養を確保する。
- 刈り遅れは、胴割粒の増加につながるため、適期収穫には細心の注意を払おう。
- 乾燥速度に注意し、胴割粒の発生を防止する。

### 1 水管理

- (1) 出穂後は飽水管理を徹底し、適正な土壌水分を維持しましょう。

登熟期間中の高温により、白未熟粒の発生が懸念されます。ほ場が乾かないよう、足跡や溝の水が無くなる前にかん水を行う「飽水管理」により、土壌からの窒素供給を図るとともに、根の活力を維持し、登熟後期までの栄養を確保しましょう。

- (2) 最終かん水は出穂後25日以降（可能であれば出穂後30日以降）としましょう。

ア 早期に落水すると、下位葉の枯れ上がりや倒伏の発生が助長されます。また、登熟不良による未熟粒等が増加して、玄米品質が低下するので、落水時期は収穫作業に支障が出ない範囲でできるだけ遅めとしましょう。

イ 最終かん水日には十分にかん水し、その後もできる限り暗きょ栓を閉め続け、土壌水分を保持しましょう。

- (3) 用水の有効活用

漏水を防止する、かけ流しはしないなど用水の有効活用を図りましょう。

- (4) 高温が予想される場合はあらかじめ湛水しておきましょう。

フェーン現象や異常高温が予想される場合は、用水の供給状況を確認したうえで、事前に湛水し、稲体の急激な水分不足による障害の発生を防止しましょう。

## 2 適期収穫

- (1) 下表を参考に、収穫作業の準備を進めましょう。
- (2) 高温登熟年は、収穫適期のめやすの出穂後積算気温を 50℃（2 日程度）早めて、刈り遅れないよう注意しましょう。早めにほ場全体を観察し、**黄化籾の割合が 85～90 %程度になった時期に収穫**を行いましょう（図を参照）。**茎葉や穂軸は青くても籾は成熟している場合があるため、茎葉の色だけで収穫適期を判断しないようにしましょう。**
- (3) 登熟後期の籾水分が低い状態（籾水分 25%以下）でフェーン等の乾燥した空気に当たると、日を追って胴割粒率が増加します。適期に刈り取れるよう計画を立てましょう。

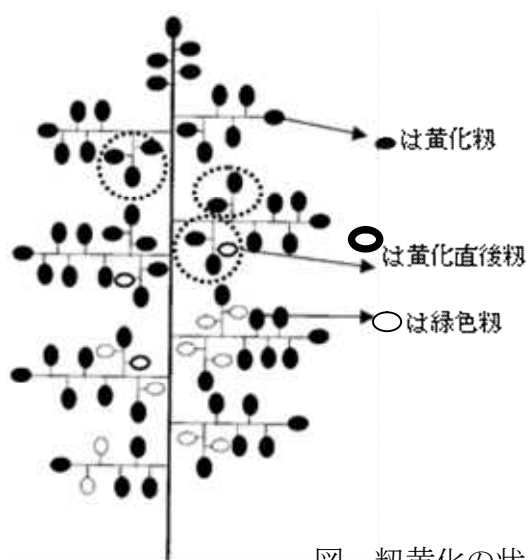
表 品種別出穂期と積算気温による収穫適期の予想

| 品種名        | 出穂盛期(出穂期の幅)     | 積算気温       | 予想収穫適期(適期の幅)     |
|------------|-----------------|------------|------------------|
| 五百万石       | 7月20日(7月18～22日) | 975℃       | 8月26日(8月24～28日)  |
| わたぼうし      | 7月20日(7月19～22日) | 975℃       | 8月26日(8月25～28日)  |
| つきあかり      | 7月22日(7月21～23日) | 1000～1100℃ | 8月30日(8月29～9月2日) |
| ゆきん子舞・ゆきの精 | 7月23日(7月21～25日) | 950～1000℃  | 8月28日(8月26～30日)  |
| こしいぶき      | 7月25日(7月24～28日) | 975℃       | 8月31日(8月30～9月3日) |
| こがねもち      | 7月29日(7月25～30日) | 1000℃      | 9月5日(9月1～9月6日)   |
| コシヒカリ(移植)  | 8月5日(7月31～8月8日) | 1000℃      | 9月13日(9月7～17日)   |

※ 8月11日までの気温は本年値（長岡アメダスデータ）、8月12日からの2週間は平年値 +0.6～+2.5℃、それ以降は平年値+0.6℃の数値を採用（気象庁の向こう2週間、1か月の予測資料）。

※ 積算気温表は普及指導センターホームページに最新情報を掲載します。

([http://www.pref.niigata.lg.jp/nagaoka\\_nourin/fukyu-top.html](http://www.pref.niigata.lg.jp/nagaoka_nourin/fukyu-top.html))



※ 図中の点線内（上位3～4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗籾）が黄化した時が収穫適期です。

※ ほ場内の平均的な穂を10穂程度調査し、8割の穂が図のような黄化率であれば刈り取り適期と判断します。

図 籾黄化の状況と刈り取り時期（富山県）

### 3 適正な乾燥

#### (1) 収穫後はできる限り早く通風しましょう

生粳は粳水分が高いほど、また高温条件であるほど変質しやすいため、収穫後はできるだけ早く乾燥機に張込み、通風しましょう。

#### (2) 乾燥速度の調節により、胴割粒の発生を防止しましょう

ア 初期水分が高く、毎時乾燥速度が0.8%を超えると胴割粒の発生が多くなります。乾燥機のマニュアルに従って適正な乾燥速度に設定しましょう。

イ 刈り遅れた場合や成熟期頃にフェーン等で異常高温が続く時は、立毛中に軽微な胴割れが起きやすくなります。これを通常の温度で乾燥すると亀裂が拡大して被害粒となるので、毎時乾燥速度が0.5%以下になるよう、送風温度を低く設定しましょう。

#### (3) 高温で湿度が低下している場合は、常温通風で乾燥しましょう

高温で湿度が低下している場合は、乾燥機の乾燥速度を低く設定しても実際の乾燥速度は速くなります。日中は加温乾燥を避けて常温で通風乾燥を行い、胴割粒の発生を防止しましょう。

#### (4) 倒伏などで水分ムラが大きい場合は、途中で加温乾燥を一旦停止しましょう

成熟期のばらつきや倒伏等で水分ムラが大きい場合は、胴割粒の発生を軽減するため、水分18~20%になったら一旦乾燥を停止し、半日程度貯留して水分ムラを解消した後、再乾燥を行きましょう。貯留のため乾燥を一旦停止する際は、通風循環で穀温を冷ましてから停止しましょう。

### 4 適正な調製で整粒歩合70%以上の1等米に仕上げましょう

(1) 粳すり機のゴムロール間隔を脱ぶ率が80~85%になるように調節し、碎米・肌ずれの発生や、粳の混入を防止しましょう。

(2) 米選機は、必ず1.85mm以上のふるい目を用いましょう。粳すり機的能力に合った処理能力のものを用い、適正な流量で使用してくず米等を完全に除去し、整粒歩合を高めましょう。

(3) 未熟粒や被害粒が多い場合は、必要に応じて1.9mmふるいや色彩選別機を活用しましょう。

(4) 粳がら及び粉じんの処理については、周辺環境へ影響を及ぼすことがないよう適切に行いましょう。

農作業中の事故、熱中症に注意しましょう！